『真實心』第二十一集平成11年度2000年3月発行（京都光華女子大学）

はじめに

『真実心』の前号（第二十集）に書かれています前学長の阿部亮耳先生の御説明によりますと、本学では宗教講座が年四回（五月・六月・一〇月、一月の各月末に）開かれ、『真実心』は各年度に開かれる講座の内容を収録するものとして毎年発行されることになっています。本号では、平成一一年度に実施されました宗教講座四回分と私の拙い講話が収録されています。

また、阿部先生によりますと、宗教講座は、「本学で教え学ぶ者すべてが心を一つにして、一堂に集まり、諸先生の豊かな人生経験を通じての宗教に関するお話、特に人間の生き方に関するお話を聴く講座」ということであります。しかし、これは、建前であって、実際には、教える人達、すなわち先生方の御出席はほとんどなく、また学ぶ側の学生達の出席率も決していいものではありません。宗教講座はすべての学生に聴かせるために開かれるものですから、これと同じ時間帯の正規の授業は休講とい

うことになっていますが、せっかく休講にしながらこちらへの出席率が悪いというのではずいぶん非効率的なことをしていることになります。どうしてこういうことになるのでしょうか。

「喰わず嫌い」という言葉がありますが、「宗教」という言葉、あるいは「佛教」という言葉を聴きますと、何となく、抹香臭いお話、お説教の類を連想して、改めて聴くまでもないと敬遠してしまう気持ちになるのかもしれません。しかし、どのお話も、関心をもって聴けば、それぞれにすごく有益な、含蓄のある内容を含んでいるはずです。

私も学長になるまでは、佛教とか真宗とかに余り深い関心を寄せておりませんでしたので、「真実心」とか、「薫習」とか、この学園で使われてきた言葉の意味を全く知りませんでした。また、「南無阿弥陀仏」という言葉の意味は考えたこともありませんでした。でも、少し関心を持って勉強をしてみると、その背後には、実に深い哲学が隠されていることが分かります。

この『真実心』に収録されているお話を読むことによって、そのような奥深い哲学

の一端に触れていただければ幸いに存じます。

二〇〇〇年三月

光華女子大学
光華女子短期大学
学長　高木英明